

2015年度助成分

■講演会等の名称

東京女子大学創立100周年記念連続シンポジウム 「グローバル社会に生きる女性のエンパワーメント」

研究代表者：

栗田啓子（東京女子大学現代教養学部・教授・副学長）

主催団体名/代表者名：

東京女子大学エンパワーメント・センター

／栗田啓子（2015-2016）、金野美奈子（2017-2018）

主な講演者名：

基調講演者：**赤松良子氏**（クオータ制を推進する会代表）、**湊晶子氏**（広島女学院院長・学長）

*各回の講演者は「講演会等の内容」に記載。肩書きは全て当時のもの。

会場名：

東京女子大学

実施期間：2015年10月17日～2019年4月30日

【研究の概要】

<シンポジウム>

本連続シンポジウムの目的は、現代日本において女性が置かれている状況の問題点を抽出し、状況改善のための方策を検討することだった。

第1回「ジェンダー・ギャップと女性のエンパワーメント」は2015年11月3日に開催した。教育分野から本田由紀氏（東京大学大学院・教授）、政治分野から大山七穂氏（東海大学・教授）、経済分野から橋本俊詔氏（京都女子大学・客員教授）をパネリストとしてお招きし、『世界男女格差レポート』における日本の低い評価の要因を析出し、それ以降の連続シンポジウムの課題とした。

第2回「女性の政治参加とジェンダー・ギャップ」は2016年11月3日に開催し、赤松良子氏（クオータ制を推進する会代表）による基調講演「女性の政治参画－クオータ制を進める」、国広陽子本学教授による事例報告「クオータ制が進む国、進まない国」を通じて、政治分野での参画の停滞を打破する方策としてのクオータ制の導入を検討した。

2017年11月2日に開催した第3回「女性を支える金融一途上国におけるマイクロクレジットの成果と課題－」では、途上国の女性をエンパワーする金融支援の仕組みを議論し、途上国の女性たちとの協働の重要性を指摘した。岡本真理子氏（日本福祉大学・教授）による報告「マイクロファイナンスと女性のエンパワーメント」、原康子氏（開発コンサルタント）による報告「南インドで挑戦した女性にやさしい信用金庫の作り方」に基づいて、議論が交わされた。

最終回の第4回「女子大学の新たな使命」は2018年11月2日に開催した。第1部における基調講演「21世紀が求める女子大学」（湊晶子広島女学院院長・学長）と大場昌子日本女子大学学長、高橋裕子津田塾大学学長、茂里一紘東京女子大学学長による基調報告と第2部冒頭の田中俊之大正大学・准教授による問題提起「現代日本社会における女子大学の意義」を受け、後半では登壇者全員によるパネル・ディスカッションが行われ、女性のエンパワーメントのために女子大学の果たすべき役割が検討された。これら4年間の成果をまとめた報告書を最終年度に刊行した。

<研究>

1) 女性の政治参画に関する調査・研究（2016年7月25～30日韓国出張）、統一地方選挙動向分析（2019年4月30日）、2) 女性の再就職・キャリアアップに関する調査・研究（2019年4月30日）、3) 女子大学による女性のエンパワーメントの積極的取り組みについてのヒアリング調査（2018～2019年度）。